



2024年4月6日  
一般社団法人 daimon  
代表理事 糸数温子

ダイヤモンドを応援してくださった皆様へ

## 「daimonCUP（ダイヤモンド）」事業休止のお知らせ

長年にわたりダイヤモンドを支えてくださったすべての皆様へ、心から感謝を申し上げます。誰もが誰かのセーフティネットであり続けられる社会の実現を目指して活動する一般社団法人 daimon（代表理事・糸数温子）は、2012年から県内各地（那覇市民体育館や沖縄市営体育館、宜野湾市立体育館、具志川じんぶん館、国際通りなど）で、ダイヤモンドを開催してまいりました。この度、ダイヤモンド事業は無期限活動休止を発表致します。以下に詳細を記します。

### ■ダイヤモンドについて:

ダイヤモンドは、日本最大級の社会派フットサル大会として知られ、過去大会では1万人以上の参加者とともにイベントを作り上げてきました。2012年の開始以来、「貧困・孤立に抗するコミュニティ作り」をモットーに、スポーツや文化などの余暇活動によって、市民、行政、企業、NPO が協力し合うプラットフォームを提供し、多様なバックグラウンドを持つ人々が一堂に会し、共に学び、成長する機会を創出してきました。

### ■ダイヤモンド休止の理由:

プロジェクトメンバーと協議を重ねた結果、ダイヤモンドは一定の目標を達成し、次のステージへの移行が必要であるとの結論に至りました。

ダイヤモンドの具体的な目標は、スポーツイベントを通じて、沖縄の貧困／労働問題の啓発、支援団体と活動の連携、そして支援活動の周知と参加のきっかけづくりでした。

まず、沖縄における貧困問題の啓発については、第1回（2012年）大会の開催当時と比べて、現在では貧困問題に対する認知は進んでいます。12年前は頻繁に「沖縄に貧困なんてあるの?」と言われてきましたが、今はもうそんなことはありません。そのため、啓発の必要性は一段落したと考えています。

次に、支援団体と活動の連携については、当時は貧困問題に対する認識が乏しく、支援活動のプレイヤーが可視化されていませんでしたが、現在ではその状況も改善しています。

また、ダイヤモンドと並行して、弊社主宰で2014年に立ち上げた「沖縄セーフティネット協議会」は、支援の現場に共通する貧困問題に対し、多様な団体が連携・連帯して課題



を理解するためのネットワーク（定期的な勉強会）として活動してきました。しかし、こちらでも 2022 年にその役割を終え、解散しました。

最後に、支援活動の周知と参加のきっかけづくりについては、現在ではさまざまな支援団体や支援方法が立ち上がっており、寄付やボランティアだけでなく、クラウドファンディングや IT 技術の活用も増えてきています。スポーツイベントを活用する事例も珍しくなくなりました。これらの変化を踏まえ、ダイモンカップは一定の目的を達成したとの結論に至りました。

## ■今後の展開

ダイモンカップを開始した 12 年前と比較して、沖縄県内の貧困問題への世論の反応は大きく変わりました。多くのひとびとがこの問題の解決に向けて行動を起こすようになりました。しかし、上述のすべての変化がポジティブなものであるとは言えません。特定の対象者や支援の方法に注目が集まる一方で、自己責任論や投資アプローチの弊害には無自覚であったり、「対策」に関する議論は脆弱なままです。私たちはダイモンカップ事業を休止しますが、これからもスポーツや余暇活動を活用することの良さや、貧困／労働問題に関する議論の喚起、そして市民活動に関する発信を続けます。

ダイモンカップの先へ進むにあたって、私たちの善意がどこにたどり着くのか、丁寧な議論を積み重ね、新たなプロジェクトの創出を目指します。今後の活動は、弊社公式サイトを始め、講演・執筆活動や公式 youtube チャンネルからお知らせ致します。

これまで応援頂いた皆様には、これまでのご支援に深く感謝し、これからも信頼できるプロジェクトを提供できるよう引き続き努力してまいります。一般社団法人 daimon の活動は今後も続きますので、引き続き、ご協力と応援をよろしくお願いします。

以上、ダイモン一同、感謝の気持ちを込めてお知らせいたします。

## ▶近日中のイベント

・弊社コミュニケーション担当・松門協（精神保健福祉士）がシンポジウムに登壇します！  
「障害者雇用における合理的配慮をめぐる対話-デンマークとフィンランドの実践と調査報告-」(<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000011.000055115.html>) 2024 年 4 月 25 日。

## ■ダイモンカップの歩み

ダイモンカップは、2012 年に沖縄における貧困／労働問題の啓発を主な目的としてスタートしました。特に、女性支援の必要性を発信するために「お母さんのためのフットサル大会」と銘打ったのは、(女性) コミュニティに訴えかける場としてスポーツイベントの可能性を拓く挑戦でした。第 2 回（2013 年）大会からは、女性支援団体や企業との連携を強化しキッズブースや就労／支援相談ブースの設置を始めました。第 3 回（2014 年）大会では多くのひとに社会参画の入口を作ることを目標に掲げて、会場で定番の取り組みとなった

# ダイヤモンド

「ダイヤモンドカップで 1 カップ! フードドライブ大作戦」が始まりました。社会貢献活動を充実させると同時に、第 4 回 (2015 年) 大会では、日本代表選手やコーチ、県外チームの招聘に尽力し、日本トップレベルのフットサル競技を観戦する機会を得ることができました。さらに、第 5 回 (2016 年) 大会からは、平日日程で、○△□ (まるさんかくしかく) クラスを新設し、「誰かの生きづらさに寄り添い応援しあう」ことを目的に、支援団体間の連携交流を進めました。

第 2 シーズンに入ったダイヤモンドカップは、新たな試行を重ねました。より多くのひとに届けるためにいかにダイヤモンドカップを応用するのかに取り組みました。第 6 回 (2017 年) 大会では、さんかくエキスポと題して、シンポジウムの開催を組み合わせました。第 7 回 (2018 年) 大会は、2 ヶ月連続開催に挑み、「ストリートファイター」と名付けた国際通りでの開催は、第 1 回大会開催時に思い描いていた計画が実現し、より多くの人にダイヤモンドカップの意義を感じていただける機会となりました。第 8 回 (2019 年) 大会からは、「就労に困難を抱える人を支援するみなさんに向けて」と掲げて「○△□実践型研修」として体験型の就労支援研修のプログラムとしての提案をはじめました。第 9 回 (2020 年) 大会は、新型コロナウイルス感染症拡大期にあり、e-sports 交流会として実施しました。



ありがとうございました。またね!



© aiko miura